

うらほろスタイル 「子どもの想い実現事業」のご紹介



うらほろスタイル事務局

上田 真弓
本間 悠資



本間 悠資
十勝うらほろ楽舎 うらほろスタイル担当

北海道教育大学釧路校在学中に、隣町である浦幌町の取り組み「うらほろスタイル」と出会う。教育関係職ではない大人たちが、子どもに真剣に向き合う姿に感銘を受け、学生時代から「子どもの思い実現ワークショップ」などに通い詰める。
大学卒業後、児童福祉職、企画会社勤務等を経て、平成30年1月より、うらほろスタイルのコーディネーターを務める。北海道教育大学非常勤講師。



上田 真弓
十勝うらほろ楽舎 理事（教育・協働担当）

大学卒業後、民間企業や教育NPO勤務などを経て、2006年文部科学省入省。2012年、初等中等教育局在籍時に「うらほろスタイル」と出会う。2013年に浦幌町初来町。以後、浦幌町の実践を政策づくりなどに生かす。
今後は、ローカルレベルで、領域を横断しながら、次世代につなぐ社会づくりに貢献することを目指し、2020年9月に文部科学省を退職し、10月より現職。

地域存続の危機感を起点に、
こどもの声を聴き、こども真ん中のまちづくりを
16年前より続けてきたうらほろで育まれた若者

1. 町内唯一の蕎麦店が、跡継ぎ不在により閉店の危機となった際、「地域の食文化を守りたい！」と名乗りを上げ、0から修行を行い20歳で店主として引き継いだ若者
2. 自らを育んだ地域の大人たちへの憧れと感謝を胸に、高齢者支援と子どもたちの教育支援を志してUターンし、22歳から「子どもの思い実現ワークショップ」副座長も務める若者
3. 家業を手伝いながら、ライフワークとして教育・まちづくり活動へ積極的にボランティア参画する若者
4. まちづくり会社に就職し、次世代に基幹産業と環境資源を残すため「持続可能な環境再生型農業」と「半農半Xの働き方モデルづくり」の担当者として活躍する若者
5. 「起業して地元を誇れる町にする」という夢を実現するため、目下大学で経営を学ぶ若者
6. 調理師専門学校卒業後、修行を積み、高齢となった先代から25歳で地元レストランの経営を引き継ぎ、30歳でIターンの同年代と共に、担い手のいなくなった地元温泉の経営を引き受けた若者

→等々、地元への愛着や社会への当事者意識を持った若者（およびミドル層）が既に多数育っている

子どもの思い実現のアウトライン

STEP1 「おとな」と「子ども」の日頃のかかわりあい(小1~中2)

小学校

中学校



STEP2 子どもたちによるアクション → 想いを大人に託す (中3)



STEP3 「子どもの思い実現」を合言葉に大人が結集！



子どもの思い実現 ワークショップ



- 「一人でも子どもの思いを叶えたい」という思いで様々な立場や職業の大人が月に一度知恵を絞る
- 当て職などは0の完全有志
- 今年10月現在で、通算102回実施
- 毎年成人式（はたちのつどい）で、現状報告も！

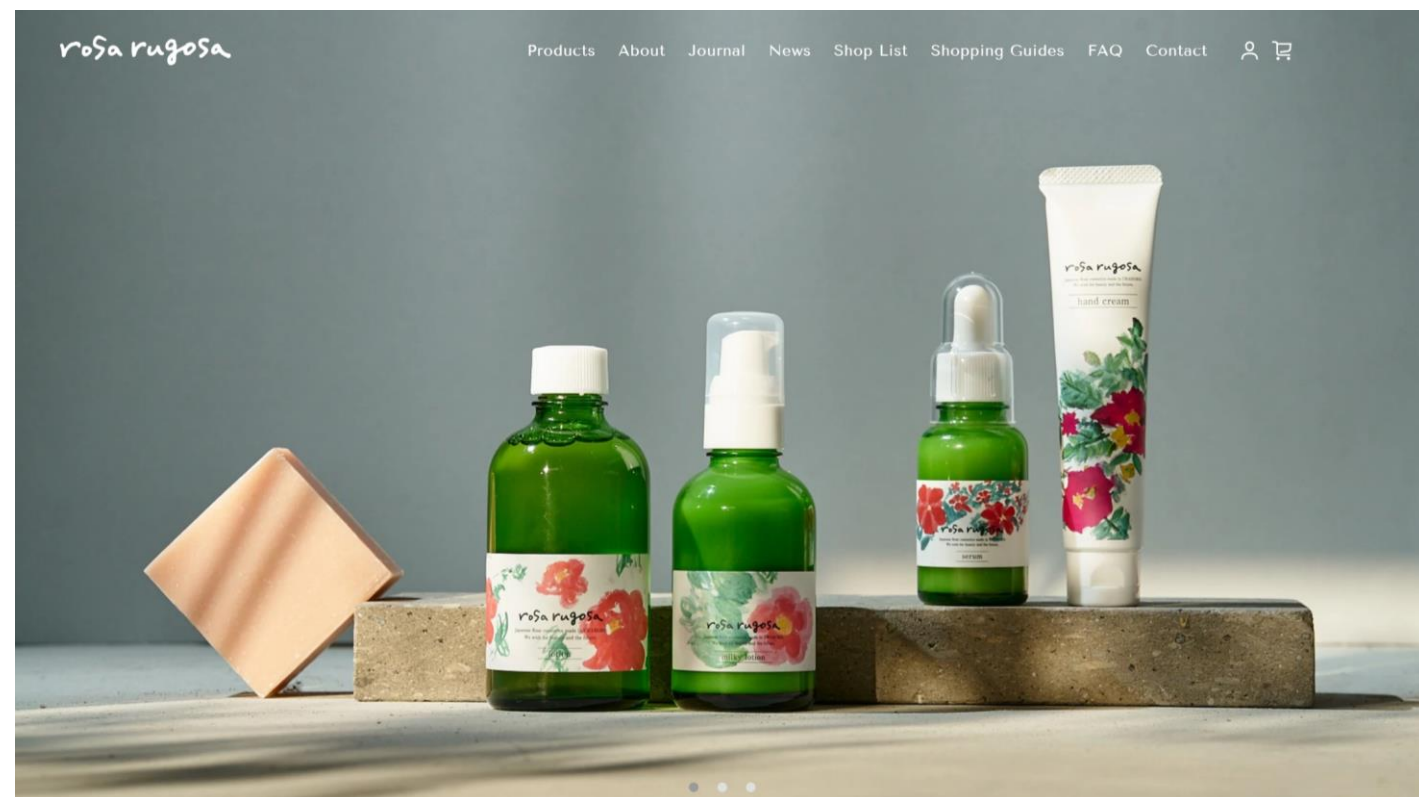
町のゆるキャラ うらはとほろま



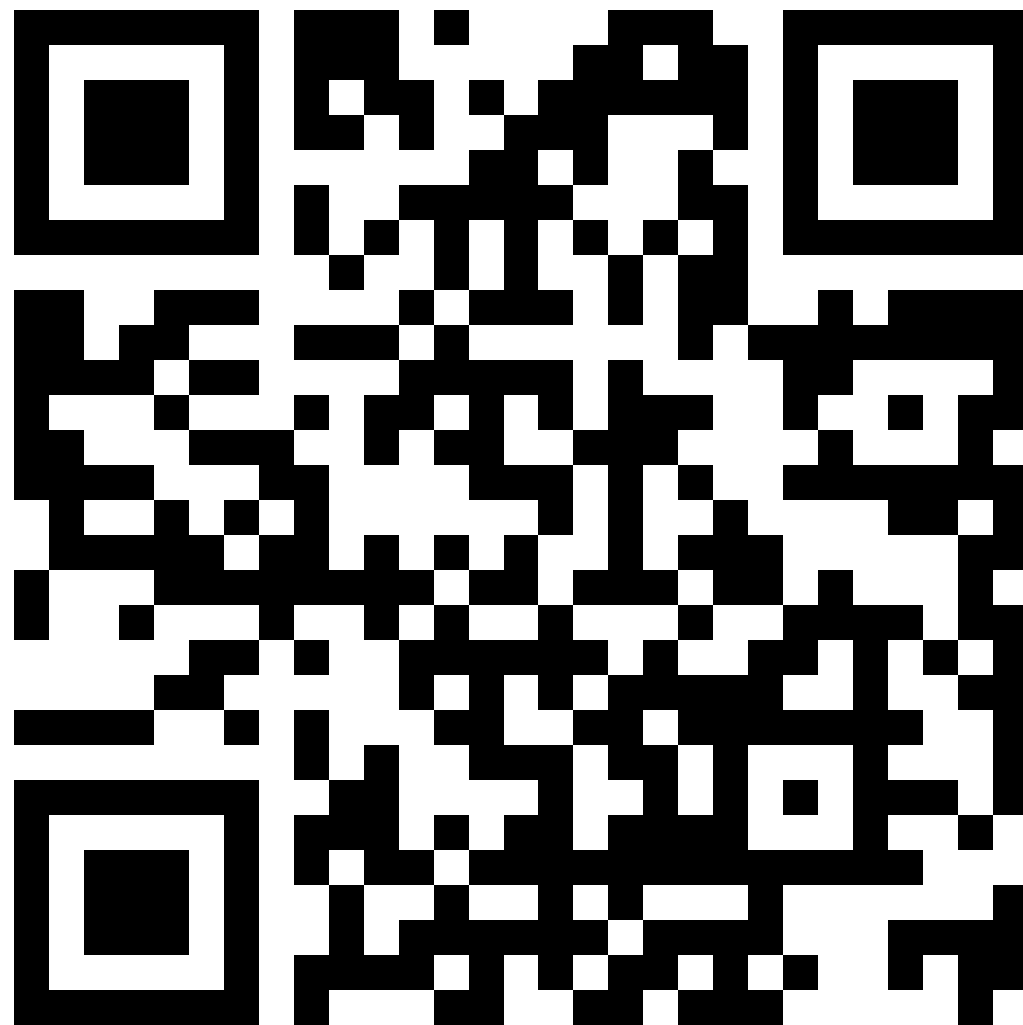
うらほろマラソン



町花ハマナスの化粧品ブランドとその販売を行う地域商社



当事者の声



北海道放送（HBC）

北のまちづくり『いま浦幌町で起きていること』～未来へのまちづくり ミうらほろスタイル、～
2022年11月13日放送（HBC公式YouTubeより）

【前編】

うらほろの取組の特色

- 「おとな」と「こども」の日頃の関わり合いの土壌の上に、想いがつながれている点
- 「一人でも多くの子供（次世代）の願いをかなえたい」と思い、
大人がワイワイ寄り合い、実現に向けて知恵を絞っている点
(正解はない、ひとつでなくてよい)

■ 草の根の取組を、町（行政）が事業として位置づけ、持続・発展をサポートしている点

■ 上記を見てきた・味わってきた次世代が、「自分たちも一緒にやってみたい」「担ってみたい」という想いを持つようになり、行動に移している点

願いとその実現が世代間で循環

<持続可能な社会づくりの端緒に>

本委員会の検討事項に照らした整理

＜本委員会の主な検討事項：

こどもや若者の①意見表明機会の確保、②多様な社会的活動の参画機会の確保の在り方＞

●②について

- ・ 様々な世代で、自らが担い手となることも含め、

多様な学びと参画が実現している

●①について

- ・ 地域の大人と子どもとの間に、意見表明のしやすい信頼関係の構築がなされてきた

- ・ 「こどもを軸にしたまちづくり」に共感する人・組織（企業など）が集いはじめ、

次世代につなぐ社会づくりにともに挑戦している。今春、複数の若手女性町議も誕生。

●次世代を軸とした政策形成及び多様な参画について、双方に進展の兆しがあり、

それらを支えられるよう取り組みたい。



參考資料

小中一貫の教育課程内で行われる「うらほろスタイル教育」

小学校

中学校

低学年

ふるさと感じ、関心を持つ

中学年

浦幌の特色・産業を知る

高学年

地域と関わり、魅力を発信

1年生

大人の生き方に触れ仕事を体験

2年生

地域活性化に参画

3年生



具体的な取り組み例①「民泊体験学習」(小5)

- ・ 町内の農林漁業者宅に、1泊2日泊まり込みで生活体験。(1家庭に対し約児童3~4名)
- ・ 作業体験を通じ、産業理解をはかるとともに、初めて会う他者に、ありのままの自分を家族の一員として受け入れられる体験を通して、自らの尊厳を実感する。



具体的な取り組み例②「地域活性化への参画」(中3)

- ・ 大好きなふるさと浦幌をよりよい町にするための企画を地域の大人たちへ提案。企画はその後、想いを託された大人が、真剣に向き合い、実現への道を切り拓かれていく。
- ・ 近年では、生徒たちも企画の提案に留まらず、自ら実行に移す活動に。ここでも大人たちは生徒たちの想いに向き合い、生徒が自らの想いを実現できるようサポートする。



親や先生以外で、ありのままの自分を受け入れ、本気で向き合ってくれる大人 = 「信じられる他人」との出会いが、自己肯定感・自己有用感、社会への当事者意識・地域への愛着の形成につながる

中高生が教育課程外で取り組む自主活動「浦幌部」

浦幌部（高校生の活動）

- 「中学卒業後も地元を拠点に活動したい」という思いから、うらほろスタイル教育を受け育った高校生有志たちによりH28「浦幌部」結成。



- 結成当初よりメインで行われていた活動は、町内の一次産品を活用した商品の自作販売。町内のイベントやお祭り、母校の文化祭での出店、近隣大学の大学祭へ出張することも。



- コロナ禍により、イベントやお祭り自体または飲食出店が相次いで中止になってからは、YouTubeを中心としたSNSを活用し、浦幌町や浦幌部の活動について、発信する活動に。



中学生版浦幌部

- 「浦幌部」で活動する高校生たちの背中を見ていた中学生たちから「自分たちも『浦幌部』の活動に参加したい」と声上がり、R2に6名で活動を開始。

- コロナ禍の中スタートした最初の活動は、浦幌の自然を紹介する絵本の作成。メンバーの特技を活かし、苦手を補い合いながら、情報収集・調査活動や、ストーリー・絵コンテづくりを重ね、約2年かけて今年7月に完成。

- 現在は部員数、プロジェクト数とも徐々に増加。中3生は、教育課程内で取り組む「地域活性化の活動」とリンクさせ、横断的にプロジェクトを進める部員（生徒）も増えてきた。



うらほろスタイルで次世代の 担い手が育まれてきたスキーム

町に対する想いや活性化案を提案

小中学校が主体となり、
地域みんなで子どもたち
を育む「うらスタ教育」

地域の大人が知恵を絞り、
子どもたちの想いを実現！

子どもに向き合う
背中を見せ続ける

中高生たちが自らまちづくりに
参画するサークル「浦幌部」を結成

町に戻りたい若者のために新
たなキャリアモデルの創造

こどもの声を聴き、こども真ん中のまちづくり は世界共通の課題解決策の可能性がある！



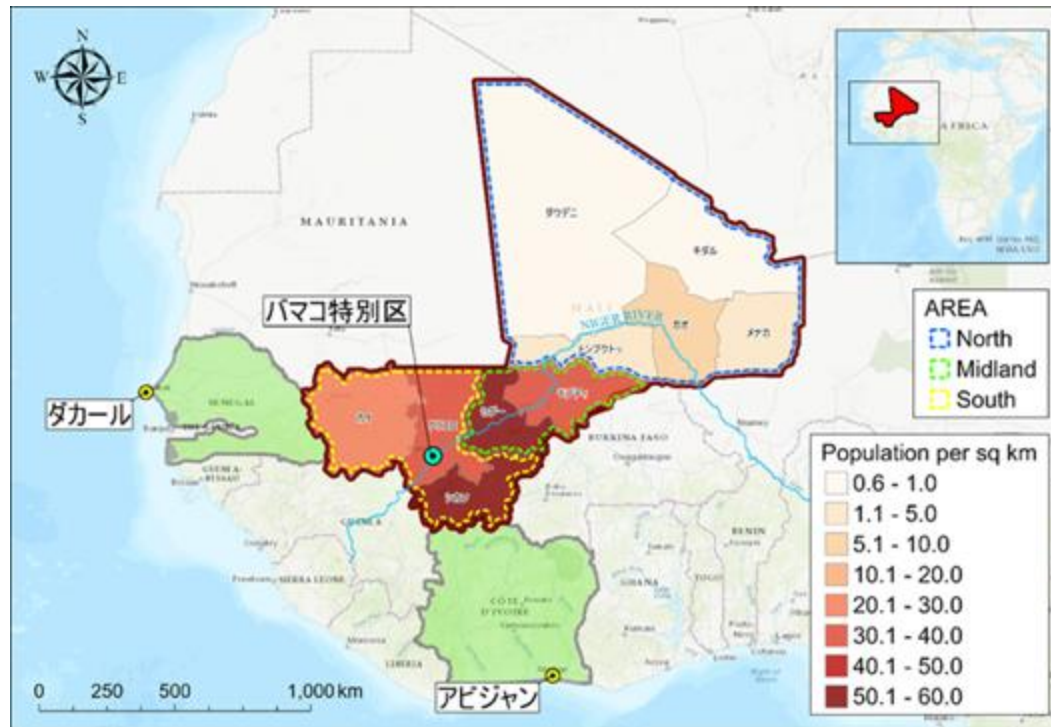
JICA国別研修「持続的発展のための地方行政強化」でマリから複数の地方行政官が来町（2023.8.25）

※写真左 コンサドーレ札幌アカデミー 石川直樹氏、San市長 ディアラ・フェリシテ氏、十勝うらほろ楽舎代表 近江正隆

※写真右 浦幌町 町長室にて

■ なぜ、マリ共和国から視察団が浦幌町に来たのか？

マリ共和国には地方自治体には求められる技術や経験を持った人材や予算、資機材が不足しており、人事、開発計画策定に係る制度も十分整備されていない。現状での制約や課題、ニーズに留意しつつ、行政官が現状でも取組可能な小規模でも効果が見える事業から始め、成功体験を積み上げていけるよう支援することが必要となる。JICAはこのニーズに応えるべく、国別研修「持続的発展のための地方行政強化」（2019～2023年度）をマリ国の地方自治体と地方自治体の管轄省（国土管理・地方分権化省）を対象に実施してきた。研修では「地方行政官の能力が強化されるとともに、住民との協働が強化される」ことを目指し、セミナー等の機会を通して、地方行政官等の気づきや学びを促進し、研修後のアクションプランの実践への支援を通して、地方自治体の行政・公共サービス提供に係るの地方行政官の実務能力の向上を図っている。その研修の一環として、2023年8月24日～26日に日本の2つの自治体を訪問した。その一つが、浦幌町であった。



「次世代を軸としたまちづくり」を十数年展開している浦幌町では、官民協働のまちづくりがどこよりも進んでいる。浦幌町では、次世代の軸にしたまちづくりについて、また地方自治体と住民の協働による地方自治の在り方を学び、自分たちの自治体と住民との協働をより促進するようなアクションプランを作成を目指した。



マリ共和国からの訪問者一覧

名前/研修員番号等	所属先	現職
Mr.ISSA Aly イッサ アリ	国土管理・地方分権化省	国土管理・地方分権化省 地方自治体総局 副総局長
Mr.DIAKITE Abdoulaye Kaba ディアキテ アブドゥライエ カバ	クリコロ州議会	クリコロ州議会 議長
Mr.BAGAYOKO Kaly バガヨコ カリ	クリコロ都市コミュニティ	クリコロ都市コミュニティ 事務局長
Mr.TRAORE Yacouba トラオレ ヤクバ	タガドゥグ農村コミュニティ	タガドゥグ農村コミュニティ 市長
Mr.DIARRA Niara ディアラ ニアラ	シカソ州議会	事務局長
Ms.DIARRA Felicite ディアラ フェリシテ	サン都市コミュニティ	サン市議会執行部長、市長
Mr.DIARRA Tiemoko ディアラ テイエモコ	セグー州議会	事務局長

※その他、ディレ都市コミュニティ市長、アラム農村コミュニティ事務局長の2名が来町

■ マリ共和国視察団の感想

浦幌町で住民の参加の様子を見ると、広角的な参加がみられる。例えば、高齢者や子ども、学生の意見を取り入れていること。それはすごく大事なことで、学校教育の中で地域の特性に内て学ぶことはマリにはない。それは素晴らしいし、地域の雇用に繋がる。年齢、性別関係なく、地域開発のビジョンを持っていることは素晴らしいと感じた。

また、日本の東京や政府で働いている方が仕事を辞めて地域に来ることは、マリではかなり珍しい事なのでかなり印象的で驚いた。

地方自治管理がなされていることを評価したい。マリではやっている途中で、まだ定着には至っていない。住民たちの土地への愛着を強く感じた。

マリと浦幌ではたくさんの似ている共通点がある。まちのためにと、住民と一体となっていることが印象的だった。官民一体になって取り組むのが大切だと改めて感じた。

浦幌では、自治体単位で子供たちの希望を考慮に入れられているのが、地域の発展に繋がっている。（子どもの思い実現事業にふれて）

他の町や都会から浦幌へ人がきていることが印象的だった。浦幌の出身ではないのにしっかりとしたビジョンを持って活動している方がいることがすごい。

一方で、若い人には若い人の、高齢者には高齢者の世代間の違いというのがあると思う。

（午前のアスリートの方のお話を受けて、）若い人でスポーツをやっている方が町に来て、住民に受け入れられて働いている。何故かという浦幌にはその価値がある。それが日本中の人をひきつけ、農村に入っているの要員なのでは、と感じた。ぜひ自分の州でも実践したい。

加えて、浦幌町では住民との信頼関係があることを評価したい。特にマリでは、指導者と住民とのコミュニケーションが弱いから強化したい。そこが無ければ活動して達成できなかった時、信頼をそこなってしまう。

言葉の壁があったにも関わらず皆が同行して自分たちに分かるように説明してくれたことを非常に嬉しく思う。地球は全ての人のもので、次世代につなぐため共に頑張っていく。

浦幌町が全国17自治体の一つに選定！ 令和5年度にモデル事業を実施することに

5. 観光・食・文化・教育・スポーツ

万博国際交流プログラム

2025年大阪・関西万博アクションプランVer.3
(2022年12月20日国際博覧会推進本部決定)
より抜粋
連絡先 内閣官房国際博覧会推進本部事務局
03-3519-3615

①実施概要
大阪・関西万博に多くの国が参加することを契機に、全国各地域において、子ども・若者等の地域住民と万博参加国の関係者が地方公共団体の事業を通じ継続的に国際交流していく枠組みを設ける。
具体的には、万博の理念等への理解を深めるための事前学習を含め、地域の住民等と交流相手国の万博関係者や出身者等とが継続的に交流していくため地方公共団体が交流相手国と行っていく事業に対し、支援を行う。
※ 参加自治体は、交流計画の提出・国の審査を経て、登録・公表される。
【交流タイプの例】
・万博前～会期中に相互往来等により相手国の文化、伝統芸能等を習得して、相手国のナショナルデーのイベントを共同実施する。
・万博前後に相互往来等を行って相手国の歴史や文化を理解するとともに、万博開催中に来日した相手国の万博関係者を地元へ招いて、講演会や住民との交流イベント等を開催する。
(実施主体) 地方公共団体
(実施場所) 会場内（催事場などナショナルデーイベント会場等）
会場外（各地方公共団体や交流相手国に所在する講演会場・交流施設等其他施設等）
(実施期間) 2024年度～

②今後の実施方針
交流に関するモデル事業を実施し、交流内容及び支援の仕組みの検討を進める。

③予算
令和4年度補正予算額：214百万円の内数
令和5年度概算要求額：425百万円の内数

④工程表

2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
制度設計 (モデル事業)		事業実施 (万博準備期間中の交流)	大阪・関西万博の 会場内外において 交流を実施

※内閣府HPから引用

万博国際交流プログラムの目的

- ✓「未来社会の実験場」を掲げる2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）には、様々なテーマ・キーワード
- ✓その多くは、地域の課題解決に重要であるのみならず、交流相手国に共通であったり先事例が豊富なケースも
⇒ 交流の実施が、**新たな気づきや先進的知見獲得の好機**に
- ✓参加型の側面が強くなっている最近の万博にあって、**国際交流という形で地域の課題解決に向かって取り組むことも、万博への参加の一つの形** ⇒「万博への参加」が交流による刺激・地域の課題解決の契機に

自治体名	交流相手国	テーマ	主な取組み
北海道 浦幌町	マリ	教育	マリ関係者が子どもたちの郷土愛を育む町の教育を体験、双方の子どもたちのサッカー交流等
山形県 村山市	ブルガリア	経済	ホストタウン交流を発展、特産品のバラの産業推進に向けブルガリアの調査等を実施
埼玉県 狭山市	韓国	文化	統栄市においてコロナ禍で途絶えていた姉妹都市交流の再開に向けた意見交換
富山県	アイルランド	食・ウェルビーイング	アイルランドにおいてサスティナブルな美食文化の発信
石川県	韓国	文化	県内中学生の韓国派遣、全羅北道の芸能団の公演開催により、国際文化交流を推進 2025年には、自治体参加催事等において、祭りの披露や文化団体の公演等を検討
長野県 駒ヶ根市	ネパール	文化	駒ヶ根市で市民向けのネパール語講習会やネパール料理教室などの文化体験イベントを開催
長野県 宮田村	韓国	教育	宮田中学校とソウル市・サンミョン中学校の学生が相互に訪問して互いの文化を学習
京都府	ベトナム	教育	府内大学生も参加し、フエにおいて、留学先としての認知度向上に向けた留学フェアの開催等 2025年には、友好提携州省の学生達による「大学サミット」の開催等を検討
大阪府 堺市	チェコ	文化	市内の学校や施設でのチェコ人形劇の上演やチェコ文化の紹介
大阪府 吹田市	スイス	健康	市内研究機関とスイスのスタートアップ企業の交流、シンポジウム開催等 2025年には、パピリオン関係者等を万博記念公園に招いて交流を検討
大阪府 松原市	韓国	セーフコミュニティ	韓国のセーフコミュニティチームと協力し、松原市において国内外の参加者を迎えてシンポジウム等を開催 2025年には、若い世代も交えた交流を検討
大阪府 東大阪市	ベナン、トーゴ、タンザニア	経済	ビジネスフォーラムや文化イベントを通じ市民の多文化共生への理解を促進
大阪府 泉南市	フィリピン	環境	泉南市とダバオ市の子どもたちが地域資源や海浜の環境保全について学習、双方の企業等も協力
鳥根県 海士町	ブータン	教育	ブータンの高校生を招いて、地元高校生・町民とともに地域課題・地域創生を学習
徳島県	カンボジア	教育	青少年がリアル交流を行って互いの伝統芸能や食を知る 2025年には、ナショナルデーイベント参加やテーマパピリオンとの連携を検討
大分県	英国	環境	大分県とウェールズとの水族館の交流、両水族館による大分県内小学生向けの海洋環境授業の実施
鹿児島県	ベトナム	多文化共生	県内で日本人住民と在住ベトナム人を対象に、ベトナム文化等の体験イベントを開催

「これからの
世界」を生きる

君に
伝えたいこと

日本の
大学の
初系
アフリカ
学系、
初著！

Message to you
For you who will live in the future world

京都精華大学 学長
ウスビ・サコ
Oussoby SACKO

不確実で多様な社会で
自分の〈変化〉
を恐れるな

大和書房
NYタイムズ、
朝日新聞など
国内外
メディア
注目！

学び、働き方、コミュニケーション — 「新世代」のための生き方！



前京都精華大学学長のウスビ・サコさんとの出会い (9/ 25)
10/26の浦幌中学校 3 年生の発表会に合わせて来町予定

リンク集

- TVh北海道ニュース「まちづくりの主演は『子ども』～浦幌町10年の取り組み①
2017年12月16日放送」
<https://youtu.be/ZmS8k-Wg5PI?si=l81JlPI3lvhYISV7>
- HBC公式YouTube「北のまちづくり『いま浦幌町で起きていること』～未来へのまちづくり `うらほろスタイル、`～ 【前編】2022年11月13日放送」
<https://youtu.be/VOZFVO4q87o?si=Tmf0mRsxuyCIpADR>
- HBC公式YouTube「北のまちづくり『いま浦幌町で起きていること』～未来へのまちづくり `うらほろスタイル、`～ 【後編】2022年11月20日放送」
<https://youtu.be/gkLoaIOuts8?si=TnEwOKXiOJ2zv8Hg>
- うらほろスタジアムYouTube「うらほろマラソンダイジェスト動画（短編）」
https://youtu.be/V_oC13milb8?si=3t62q4VhaRFObffn
- うらほろスタイル事務局YouTube「うらフェス2022in浦幌高校」
https://youtu.be/AT19_S-HEZg?si=YdFgRNOEsHaLLVBD

